

「これからの市立美術館について」（素案）に対する意見の概要と市の考え方

【反映結果】

- ① 素案に掲載済、すでに実施中、今後実施予定・検討等
- ② 素案の追加・修正あり
- ③ その他

1. 「素案」全般 に関する意見

番号	意見の概要	意見に対する市(美術館)の考え方	反映結果
1	新しい美術館を創造するくらいの意気込みと、大胆かつ新鮮な内容を期待したが、全くの期待外れであった。「専門学芸員の存在自体が悪であり、展覧会は、既製の巡回展のみとし、自主企画展は行わない」、「自身が研究者であるから、専門学芸員は不要」などと言っていた時代に較べると、たいへんな改善と言えるが。	美術館では、今後とも市民のみなさまの多様な意見を真摯に受けとめながら、基本理念をもとにした新たな取組みを推進してまいります。ご理解いただきますようお願いいたします。	①
2	金沢21世紀美術館、地中美術館などの地方の美術館が注目を集めている。北九州市立美術館は、磯崎新氏の設計によるユニークな作品であり、いまだ十分な魅力を放っている。北九州市も美術館を目玉にして観光アピールを掲げられたらよいと思う。工業都市で、鉄鋼産業不振により経済が沈滞していたスペインのビルバオが、世界的な入館者数を誇る美術館の出現により生まれ変わった例もある。北九州市もビルバオを参考にしようか。	北九州市立美術館は、世界的に有名な建築家「磯崎新」氏による設計で、緑豊かな小高い丘の上にあり、眺望もよく、市内外から多くの来館者があり、大変親しまれています。今後は、7,000点を超えるコレクションを生かした自主企画展の充実にも努め、大規模な展覧会もバランスよく開催するなど美術館としての魅力をさらに高めます。また、美術館を観光資源の一つとして、一層の質の向上とPRに努めるとともに、市内外から多くの方が来られるよう、美術館と美術の森公園一帯を、1日中、ゆったりとくつろぎ、楽しめる空間にしていきたいと考えています。	①

2. 基本理念・基本方針 に関する意見

番号	意見の概要	意見に対する市(美術館)の考え方	反映結果
3	《基本理念》には、求心力が無い。 《基本理念の柱》は、どこの美術館でも実行されている。全て、現行の基本方針 I、IIと変わらない。“ユニーク”という言葉が見られるだけ、現行の方がマシである。“北九州でなければ”という、北九州市立美術館の独自の顔がなければならぬ。理念とは、美術館自身が、何者でありたいか、という意志表明であり、そこに、独自性が表現されるのである。新しい基本理念は“心がけ”に過ぎず、主体性の放棄である。 激動しつつある、世界と人間の状況に対する考察が、完全に欠けている。 美術とは、本来潤いを与える嗜好品ではなく、作家一人一人が、社会状況の中で、“いかに在るべきか？”を問い続けたものである。	美術館は昭和49年開館当初に定めた基本方針（1 地方美術館としてユニークな美術作品を収集する。2 市民生活に密着したリビング・ミュージアムを目指す。）に基づき、今日まで運営を行ってきました。この間、モネ、ルノワール、ドガ、草間彌生、平野遼など近現代作家の作品や1,300点の浮世絵などを含め収集作品は7,000点を超えています。今回、開館後35年ということなどを契機に、これまでの基本的な考え方を継承しつつ、現行の基本方針をよりわかりやすいものにするとともに、コレクション展や調査研究の充実、運営状況の評価、市民等への情報提供、学校との連携強化など、地域とともに成長していく美術館を目指すものです。今後は、今回の基本理念や基本方針に著実かつ主体的に取り組むことによって、当美術館の個性（独自性）を伸ばしていきたいと考えています。	①
4	美術館コレクションは、その美術館が開設された時代や地域性を背景として成立してきた。北九州市立美術館も、1970年代以降の美術、産業文化を反映する美術を対象の一環にしてもよいのではないかと。例えば、東田に眠っている第1回鉄鋼シンポジウムで制作された作品をコレクションとして、美術館や他の場所に設置し、市内全体をひとつの彫刻公園と見立て、その中心に美術館があるようなイメージをつくってはどうか。	コレクションについては、従来の基本方針を踏襲した基本方針 I のように、開館以来の世界的美術作品を含む収蔵品の蓄積を踏まえ、質の高い優れた美術品の収集の心がけながら、地方美術館として特色あるコレクションの形成を目指すこととしています。ご意見にもありますように、美術館では、北九州市が鉄の町であるという歴史を踏まえ、フランクステラの八幡ワークスなどの鉄鋼彫刻を収集、展示しております。美術館では、長期的視点に立って、鉄鋼彫刻を含む収蔵作品や本市の産業、社会、歴史を踏まえた調査研究を進め、運営に活かしていきたいと考えています。	①

番号	意見の概要	意見に対する市(美術館)の考え方	反映結果
5	<p>「これからの市立美術館について」(素案)に対する私見 私は谷館長時代にほぼ10年、小島館長時代に約2年、美術館協議会の委員を務めた経験があります。「素案」を拝見し、従来の基本方針を継続するという表現はありますが、ある種の変容を感じ、いささか危惧いたしますので、愚見を述べさせていただきます。</p> <p>① 開館当時の基本コンセプトは、リビングミュージアムでしたが、この心は、器としていくら立派な美術館(建物)が出来ても、中に飾る作品を持たなければ単なるイベントホールでしかない、最低限、建設費と同程度をかけて収集した収蔵品を持つまでは美術館とは名乗れない、でも当初からその願いは無理なので、当面はリビングミュージアム、というコンセプトを打ち出し、中長期に立派な美術館に育てていこう、ということだったと思います。リビングミュージアムという言葉は和製英語でしょうが、当時の個人住宅でリビングルームと称される部屋を持つことがはやり始めていた世相を反映したものでしょう。家族が一部屋に集まって寛ぎ、団欒が取れる部屋、という意味から、市民が集い、芸術の雰囲気になれる場所としての美術館というイメージ。今回の基本理念ではⅠ. でコレクションの形成、という言葉は残ってはいませんが、ウェイトはⅡ. とⅢ. に移ってしまっているのではないのでしょうか?着実に35年の年月で成長しつつあるものが、もともと窮余の策で生み出されたコンセプトの方向に先祖がえりしている感じがしてなりません。</p> <p>② Ⅰ. の収集の基本方針が従来の方針からは随分変わっている感じがします。従来は毎年の購入予算の半分程度を積立て4年に一度大作を購入する、毎年購入するものは、後発の美術館として特徴を出すために、伝統的な名作集めでは到底既存の有名美術館には太刀打ちできないから、現代美術にウェイトをかける、併せて地元作家の後援、飛躍の場を提供するために地元作家の作品を2割程度購入すること、という暗黙の基準があったと思います。素案のⅠ. の収集方針は、西日本出身の作家の作品中心、版画、デッサン、海外の近現代美術、とありますが、要は安く買えるものしか買わない(買えない?)が透けて見えます。</p> <p>③ ゴッホ、ルノワール、モネ、坂本繁二郎、等の大作を購入した折は、日頃の来館者の範囲を超えた広範囲から来場者が増えたことも事実ですし、議会でもコストパフォーマンス論が種々あったことも事実です。本物を一点でも持っていれば国内外の美術館同士での交流交換展覧会などの交渉の場で、有利になることも又事実かと思えます。一番の議論は美術館内部での、学芸員さんたちの議論だったかと思えます。極論すれば、現代美術一本でいくべきだ、今時、印象派や院展なんぞは美術ではない、というような主張。</p> <p>④ 美術館が年輪を重ね成長する、とは基本的には収蔵品が増えることが重要な要素だと思います。公立美術館という制約からも、ストックを増やす、ということは、市民の税金を経費で使ってしまうのではなく、市民の財産を形成していく(投資効果すらあります)、ことですから、(ガラクタを掴まされたらいいませんが)黙々と収集は続けるべきかと思えます。</p>	<p>今回の「これからの市立美術館について」は、「2美術館の基本理念」の項にも記述したように、これまでの基本的な考え方は継承すべきもの、ということの大前提にしています。そして、そのうえで、開館後35年ということなどを契機に、現行の基本方針をよりわかりやすいものにするとともに、コレクション展や調査研究の充実、運営状況の評価、市民等への情報提供、学校との連携強化など、地域とともに成長していく美術館を目指すものです。今後は、今回の基本理念や基本方針に着実かつ主体的に取り組むことによって、当美術館の個性(独自性)を伸ばしていきたいと考えています。</p> <p>なお、厳しい財政状況にありますが、所要の予算確保に努めるとともに、効果的・効率的な運営に一層取り組み、ご指摘のバランス感覚に十分留意しながら、今後も質の高い優れた美術作品の収集を心がけたいと思えます。</p>	①

番号	意見の概要	意見に対する市(美術館)の考え方	反映結果
	<p>⑤ 公立美術館は特定の作家や特定の会派の美術館ではありませんから、あらゆる意味でのバランス感覚が大事かと思えます。具象か抽象か、西洋か日本か、中央か地元か、収集かイベントか、教育か美術愛好者向けか、等々。権限を持った人が自分の趣味で恣意的に運営するようになることは絶対に避けねばなりませんし、逆に何の専門知識も感性もない人たちが単純多数決でことを決められても困ります。いろんな選択肢の中でのバランスを中長期的に定めておくことが肝要でしょう。</p> <p>⑩ 今回の市民からの意見募集については、重要な情報が開示されていません。それは美術館に対する予算が年々縮小してきているという事実です。すべての文化予算が年率7%程度縮小されてきている中で、安易なアンケートで、民意の了承を得た、とばかりに事が運ばれては困ります。予算縮小の中で、学芸員を増やし、Ⅱ、Ⅲ、の事業を増やすということは、その都度消えていく人件費を始めとする諸経費は増えて、収集というストックへの投資がカットされ、謳われてはいますが収蔵庫の拡張整備やハード面でのメンテナンスが、予算がないから、という理由で後回しになることを危惧します。わずか35年の歴史でそのような方向転換はいかがなものでしょうか？今が踏ん張り時で、黙々と育て上げていけばかなりの存在感のある美術館になるのでは、と思います。入館者数だけで、客寄せに成功している新興の美術館にコンプレックスを感じることはありません。他の観光施設との共存や様々な要素がありますので。</p>		
6	<p>現在、絶対的な特色がありますか？私には感じられません。収集にあたり目指す方向を基本方針に書いてありますが、こんなことを今更改めて発信するようでは、設立から今日までは一体何だったのですか？館長や学芸員が交代するたびに中味までウヤムヤになるのでは困るのではありませんか。</p>	<p>美術館では、開館以来掲げてきた収集方針により、約7,000点の作品が収集され、中でも版画は約4,000点を収蔵しています。</p> <p>版画のなかでも浮世絵は1,200点収集され、近現代の日本や欧米の絵画についても当美術館の特色ある収集となっています。今後も、これまで収集してきた作品を生かしながら、時代背景、作家・作品の関係に留意しながら系統的な作品収集に努めていきたいと考えています。</p>	①

3. (1)『感じる、楽しむ』に対応する取組み に関する意見

番号	意見の概要	意見に対する市(美術館)の考え方	反映結果
7	<p>財政的な面で何億もする高額な絵画等の購入は現時点では出来ないと思う。このため、他の美術館との積極的な作品の貸借りを相互に行ない、市民に色々な美術品を見ていただき感性を高めていただきたい。他館との相互連携は、今後、強めて欲しい。</p>	<p>美術館では、収蔵作品の調査研究に基づく展覧会や、他館との連携による作品の相互出品などによる展覧会の開催を充実させていきたいと考えています。今回、ご意見を受けまして、自主企画展や共同企画展開催に「推進」の文言を盛り込みました。</p>	②
8	<p>地元・北九州の作家の方の作品が今ひとつ少ないのではないかと。今後、地元の作品があることで地元の方が見に来るということもあると思う。出来るだけ身近な作品展を企画することで、もっと関心を持ってもらえるのではないかとと思うので、地元でどういう人がいるのかの情報を集めて、地元の芸術家に日の目を当てる展覧会を開催して欲しい。</p>	<p>企画展については、市民の多様なニーズに対応するため、地元や国内外の近現代の絵画や彫刻、工芸、漫画、デザイン、絵本など、さまざまな分野の作品、市民が親しみやすく気軽に楽しめる作品や世界的な作品などとの出会いの場を提供する展覧会を開催することとしています。ご意見にもありますように、今回、より地域と関係のある作家の作品との出会いの場を提供することが必要であると考え、記述に盛り込みました。</p>	②
9	<p>市民の中にも、素晴らしい作品が多くある。秋の市民センターの文化祭後でもいいから、そういう素晴らしい作品を美術館で一同に集めて展示して欲しい。</p>	<p>市民による公募展については、現在、すでに公的なものとして、4月に北九州芸術祭、10月には県展を開催し、各々の運営の中ですぐれた作品の評価がなされています。美術館での展覧会には、芸術祭や県展の運営にみられるような一定の審査プロセスが必要であり、多くの方に芸術祭や県展に参加していただきたいと考えています。</p>	①

番号	意見の概要	意見に対する市(美術館)の考え方	反映結果
10	財政破綻した夕張の美術館などは適切な運営がされていないと言われている。そういうところから絵を無償で借り受け保管・展示することも仕事に入れてみてはどうだろうか？	厳しい財政状況の中で、美術館を効果的・効率的に運営するためには、他の美術館との交流・連携を進め、相互の美術館の収蔵作品を使った企画展を共同開催するなどして、魅力ある展覧会の開催に努めていきたいと考えています。	①
11	美術館の企画展に、古典や印象派の作品展も素晴らしいとは思いますが、(予算の都合もあるでしょうが)もう少し抽象画展等を計画して頂くことを希望します。	美術館では、地元や国内外の近現代の絵画や彫刻、工芸、漫画、デザイン、絵本など、さまざまな分野の作品と出会う企画展をバランスよく開催することとしています。また、収蔵作品によるテーマごとのコレクション展や他の機関との連携による企画を開催することとしており、今後ともバランスに配慮して展覧会を開催していきたいと考えています。	①
12	2008年～2010年にかけて企画展が魅力があるものに变化していった。難解なものより、理解されやすいものの方がいい。21世紀だからパリ中心の定形だけでなく、色々な視点があってよいと思う。個人的には「生活に密着した」を目指すならプロダクトデザインの企画もほしい。		①
13	素案の内容を見たが、今までの北九州美術館と印象的には何も変わらないと思う。八幡にはCCA北九州もあるので、金沢の21世紀美術館のような街ぐるみで現代美術で町おこしをするための中心となるような現代美術館を望みます。		①
14	区民美術選抜展を復活してほしい。少なくとも戸畑区の関係者は期待している。美術の底辺を拡大し美術館を身近なものにするのに役立つと思う。	美術館では、地元や国内外の近現代の絵画や彫刻、工芸、漫画、デザイン、絵本など、さまざまな分野の作品と出会う企画展をバランスよく開催することとしています。市内の作家の作品を展示する展覧会としては北九州芸術祭、県展がありますので、これらへの多くの方の参加をお願いしたいと考えています。また、市民ギャラリーでは、市民の皆様の日頃の成果を発表する場を提供しており、ご活用いただきますようお願いいたします。	①
15	企画会社等からの企画展購入を極力減らして、美術館連絡協議会との連携や自主企画展を増やしてほしい。金沢21世紀美術館のように、都市の魅力を体現するような企画内容を増やすことで、より強い地域情報の発信をしていくべきと思う。長崎街道や工業都市などの北九州市の文化と連動させることや、新しい地域のあり方を表現するような展覧会もあっていいと思います。	平成19年度開催の児島善三郎展は府中市美術館と連携して企画しました。田園賛歌展は美術館連絡協議会との共同企画展です。また平成21年度の浜田知明展や広重の浮世絵展は自主企画展です。今後とも美術館連絡協議会との共同企画や他館との共同企画、自主企画を行っていききたいと思います。今回、ご意見を受けまして、自主企画展及び共同企画展開催に「推進」の文言を盛り込みました。	②
16	ただやたらと広い展示スペースを埋めるが為に大量の質の悪い作品をも展示する企画展を改良してほしい。そろそろこの美術館ならではのオリジナルの視点で生み出された企画展が観たい。	コレクション展では、東洋美術コーナー、日本近代コーナー、地元ゆかりの作家コーナー、テーマコーナー、現代美術コーナーとバランスを考え、展示を行っています。また、各コーナーの中で、時代性や作家の関連性、あるいは作品のテーマ性に着目した作品の選定を工夫して展示を行っています。さらにわかりやすい視点などが伝わる展示となるよう、いただいたご意見は、今後の所蔵品を使った自主企画展やコレクション展を企画する際、いかしていきたいと考えてます。	①

番号	意見の概要	意見に対する市(美術館)の考え方	反映結果
17	美術館は公民館やデパートの人集め展とは基本的に違うと思います。美術館としてのポリシーを持っていただきたい。基本的に過去・現在・未来…現代の紹介でしょう。	地方の公立美術館としては、多様なニーズに対応する必要があり、世界的名品から地元作家の紹介にいたるまで、バランスのよい企画展を開催しています。美術館としてのコンセプトを打ち出した企画展は重要であり、自主企画展の中で取り組んでいます。今後もご意見を参考にしながら、自主企画展を行っていきたく考えています。	①
18	展示の内容も悪く言えば「大したことはない」展覧会が多いのかな(?)と思います。	地方の公立美術館としては、多様なニーズに対応する必要があり、世界的名品から地元作家の紹介にいたるまで、バランスのよい企画展を開催しています。今後の自主企画展では、より一層の工夫を行い、調査研究の成果を活かせるよう努めていきます。	①
19	個人の好みに左右されるのだと思いますが、人の集まる展覧会は他館と積極的に交流すべきと思う。	平成19年度の児島善三郎展は府中市美術館、田園賛歌展は埼玉県立近代美術館、山梨県立美術館、ひろしま美術館と平成20年度のジョン・エヴァレット・ミレイ展は、Bunnkamuraザ・ミュージアムと交流しながら開催することができました。また、平成21年度の石山寺展では奈良国立博物館の学芸員に協力いただきました。今後もこのような交流は、進めていきたいと考えています。 今回、ご意見を受けまして、共同企画展開催に「推進」の文言を盛り込みました。	②
20	全国には個人設立の素晴らしい美術館がたくさんあると思います。そんな美術館の作品を定期的に展示・紹介することなども公立館の役目だと思います。	美術館では、地元や国内外の近現代の絵画や彫刻、工芸、漫画、デザイン、絵本など、さまざまな分野の作品と出会う企画展をバランスよく開催することとしています。現在でも、他館と共同して展覧会を開催したり、展覧会の開催に際して官民を問わない美術館や個人からの作品の貸借なども行っております。また、今後、他館と連携した調査・研究を推進する(4(2)⑤「他館や学校教育との連携」参照)こととしています。その中で、ご意見の趣旨も活かしていきたいと思っています。	①
21	美術館に足を運ぶ度に「展覧会をしてやるから観に来なさい!(何か文句があるか)」という様な気分を味わっています。美術館は役所の物でもなく、館長や学芸員の物でもなく、市民の物です。展覧会も市民のための展覧会でなくてはならないはず。一部の評論家や学芸員の好みだけで運営されないことを切に希望します。	美術作品のよさを市民と共有する視点に立ち、わかりやすい展示の工夫、解説カードの充実、美術ボランティアによるわかりやすい解説など、市民のための美術館を目指して、なお一層努力していきたいと思っています。	①
22	天井が高く空間が広々として良い美術館だと思いますが、時として作品の展示場所、配置が適切かどうか、考えさせられる時があります。建物の特性が使いきれない面があるのではないのでしょうか。	作品の展示にあたっては、その作品の内容や展示空間などに配慮して、施設と一体となった見せ方の工夫をおこなっております。今後も、ご意見にありますように、建物の特性を十分引き出せるような展示の工夫を行ってまいります。	①
23	市民センターなどでは絵などが展示されている。美術館が地元の画家の絵を評価した後、貸し出すというのはどうだろうか。	美術館では、北九州芸術祭や県展で地元作家の優れた作品を購入し、その中から数点の作品を管理体制など一定の条件のもと市の施設に貸し出ししています。	①
24	大規模企画展を実施すれば、入館者も増え収入も大きい。一方で、質の高い地元作家展や、自主企画展を開催する必要があり、そうすると収入は少なくなるのではないかと。質の高さということは、理念にもとづく良い作品の収集、良い自主企画展を実施することである。	学芸員の調査研究に基づく自主企画展や他館や市内の文化施設等とも連携した企画展、地元作家をテーマにした展覧会等にも力を入れていきたいと考えています。今回、ご意見を受けまして、自主企画展及び共同企画展開催に「推進」の文言を盛り込みました。	②

番号	意見の概要	意見に対する市(美術館)の考え方	反映結果
25	1年に一回か2年に一回美術館主催のコンクール等を行って、新人の発掘をしてはどうかと思います。	美術館では、公的な公募展として4月に北九州芸術祭、10月には県展が開催され、新人発掘の役割を果たしており、多くの市民が作品を出品し、その入選作と入賞作品を美術館に展示して市民に紹介しています。	①
26	22年度から広く一般からの企画展の企画募集を実施する。一般市民の中にも鑑賞者・消費者の立場から発信者・表現者になりたいと望む者の割合が増えている。企画会社や一部団体による企画展示にはない個人発の新味な企画が、これまで美術館に足を運ばなかった新たな客層を掘り起こす鍵になると考える。	美術館での展覧会は、学芸員の調査研究を基本としますが、今後は市内の高校と大学等との連携の中で、展示企画に若い世代の参画を求めるなどの取り組みを検討していきます。一般からの公募には企画展の展示作品に対する作者、他美術館、企画会社などとの交渉のほか準備のために数年かかる場合や多額の経費がかかり募集結果に沿えないなど様々な課題が考えられますので、今後研究させていただきます。	①
27	利便性を考えて、院展は本館から分館に変わったと聞いているが、本館で院展を開催して欲しい。	院展は、昭和55年から毎年美術館本館で開催されてきました。しかし、開催時期が冬であり、雪のため運営に支障がでることや、主催者から気候がよく展示に支障のない4月に開催したいとの意向が示されました。本館では、ちょうどその4月には「北九州芸術祭」が開催されていることなどから、平成20年より、現在の分館で開催することとしたものです。ご理解いただきたくまますようお願いいたします。	①
28	院展は、この2、3年分館の方で行なわれていますが、本館で実施して欲しい。分館は天井が低く離れて作品を見ると人にぶつかってしまいます。雄大な作品が多いので本館でゆっくり見たいと思います。		①
29	県内や県外の他の美術館は、割と地元の作家と密接に関わり登場する場面も多々あるように見受けられるが、北九州市立美術館においては、ただ市民ギャラリーを「提供する」だけであり、美術館の目指す方針と地元に住みながら活動をしている作家の望む地元での環境が、あまりにも遊離している気がする。市内で展覧会をしても、美術館の学芸員が全く来ない現状は、地元の作家と関わりたいという意志がないのだろうと受け止めている。 美術館は市の中枢機関という自覚を持ち、もっと北九州市に住む作家の活動状況や仕事ぶりを提示、受信できる場をつくって欲しい。	企画展については、市民の多様なニーズに対応するため、地元や国内外の近現代の絵画や彫刻、工芸、漫画、デザイン、絵本など、さまざまな分野の作品や、市民が親しみやすく気軽に楽しめる作品や世界的な作品、などの出会いの場を提供する展覧会を開催することとしています。また、市民ギャラリーについても、地域の作家による作品発表の場として、今後、一層の利用促進を図ります。加えて、ご意見にもありますように、より地域と関係のある作家の作品との出会いの場を提供することが必要であると考え、記述に盛り込みました。	②
30	北九州市は財政状況が厳しい。今後、5年間の新規の美術作品収集を停止し、現存の収集品を活かした展示を行うべきである。これからの時代、公共施設は事業収益をより重視していかなければならない。	厳しい財政状況の中で、美術館を効果的・効率的に運営するためには、収蔵作品の調査研究に基づく展覧会や、他館と相互連携による作品の相互出品などによる展覧会の開催を充実させていきたいと考えています。	①
31	名品として認知されているクラスの作品は、必ず毎展示所定の位置に展示して頂きたい。それを目当てに常設にみえる方もいます。	現在、収蔵している名品は、コレクション展示室に名品コーナーを作り、そのコーナーで展示をしております。	①

番号	意見の概要	意見に対する市(美術館)の考え方	反映結果
32	平野遼遺作の常設展示ギャラリー設立は、ここ10年ちかく、くすぶり続けた問題であります。6年前に、NPO法人が、田中丸コレクション、平野遼遺作コレクションの常設ギャラリー設立運営を目的に掲げ発足しましたが、何の前進もなく頓挫しております。そこで、美術館に平野遼の常設展示室を設置して欲しい。	平野遼の作品は、油彩画、素描、版画を合わせて約150点所蔵しています。平成20年に、コレクション展テーマコーナーで平野遼特集をして市民の皆様にお楽しみいただきました。今後も評価の高い地元作家として平野遼をとりあげた展示は行っていきます。例えば、コレクション展示室には地元ゆかりの作家コーナーを設け、さまざまな地元ゆかりの作家の作品を紹介しています。また、テーマコーナーもあり、その中で特集展示を行うことができます。しかし、一人の作家の作品による常設展示室を設置することには、長期的な美術館運営という観点からは問題も多く、今後の検討課題とさせていただきます。	①
33	所有している作品を常時入れ替えて、どんどん紹介すべきだと思います。(常設展はほとんど変わらない?)	当館には、約7,000点の収蔵作品があり、これらを市民に鑑賞していただくため、年4回、分野別にテーマを決め、作品を入れ替えながらコレクション展を開催しています。今後とも積極的にコレクション展で公開していきます。	①
34	北九州市立美術館は、収蔵作品と展示は非常に良いが、作品が体系的にわかるような展示になっていない。また、展示空間が狭い。	現在、コレクション展示室では、東洋美術コーナー、日本近代コーナー、地元ゆかりの作家コーナー、テーマコーナー、現代美術コーナーとバランスを考え、展示を行っています。各コーナーの中で、時代性や作家の関連性、あるいは作品のテーマ性に着目した作品の選定を工夫して展示を行っています。今後、ご意見にあるような体系的な展示を含め、展示構成には、多様な工夫をこらしていきたいと考えています。	①
35	小学生の鑑賞教室を充実してほしい。	子どもの豊かな情操を養うため、美術館において「小学生美術鑑賞教室」を実施しています。今後とも、その充実に努めていきます。	①
36	金沢21世紀美術館は、金沢市長が小学校5年生までは無料で行かせている。それ位の年代が一番情操教育に適し、才能を伸ばすことが出来ると思う。文化パスポート、たんけんパスポートなど美術館鑑賞を行う取り組みが行われているが、全児童が美術館に行けるような取り組みを行ってほしい。子ども達には無料で行かせることが大事だと思う。		①
37	児童・生徒を美術館に集めて指導することについては、あまり期待していない。子供の頃の体験として価値を押しつけられると嫌だったので、日常の学習や遊びの中での造形体験の方がより重要だと思う。	美術館には作家が制作した本物の美術作品が展示されます。本物の美術作品に出会うことも子どもの体験として重要だと考えています。ご意見にありますように、日常の学習や遊びの中での造形体験は、非常に重要であると考えており、今後も子どもが楽しめる体験型のコレクション展示やワークショップを開催していきます。	①
38	生徒が学ぶのは大切だが、曜日、時間などを区切って実施して欲しい。生徒には、網羅的に見せるのではなく一点を重点的に鑑賞するのも美術教育の効果が上がると思う(エルミターシュ、オルセーでも大勢の生徒がこういう鑑賞をしていた)。 静かな空間で鑑賞したい人が、例えば展覧会を鑑賞するのにふさわしいのかと思われる学年の生徒と一緒に鑑賞するのは問題である。	小学生のときから美術鑑賞の仕方を身につけるのは、大切なことです。そのため、現在、美術鑑賞教室に参加する学校については、事前に学校教員と打ち合わせし、子どもたちに静かに鑑賞する態度を教育しています。今後も、学校と連携し、子どもの鑑賞態度を高めていきたいと考えています。鑑賞教育のあり方については、ご意見を含めて、今後さらに検討して、よりよい内容を目指します。	①

番号	意見の概要	意見に対する市(美術館)の考え方	反映結果
39	小中学校との連携については素案を見る限り主に鑑賞が中心な様な気がする。既にワークショップがあるが、一步踏み込んで子ども達が実際に絵を描いて展示するようなことは出来ないか。例えば、長崎での「キッズゲルニカ」のようなものは考えられないか。市内小中学生が美術館を使ってワークショップ等出来る企画を新たなコンセプトで出来たら良いと思う。	小中学校との連携については、これまでも力を入れてきており、美術館賞教室やワークショップなどを充実・強化することとしています。また、ご意見の趣旨を活かしながら、就学前の子どもから高齢者までの各年代に応じた内容のワークショップなどの教育プログラムを充実させる記述を盛り込みました。	②
40	美術鑑賞及び絵画活動は生活に潤いをあたえ感性・情緒を高めるのに大変有効。しかし、進学重視からか、中学・高校の美術教育も重要視されない方向にあると聞いている。北九州は昔から文化の砂漠と云われ、絵に興味を示す人が少ないと思う。 北九州市立美術館としては、他の成功している美術館の活動を参考にして、どうすれば多くの市民が集うかを研究すべき。特に子ども(小・中・高生)の関心を示す方向に導くことが大事である。		②
41	就学前の小さな子どもの時から、美術館にかかわれる様な仕組み(ワークショップ)を行ってほしい。		②
42	地域コミュニティの運動ということではボランティア活動など、充分全国区であるし、より強化させる意味では、世田谷美術館のような社会人教養のための学校としてのあり方も検討していただければと思います。	美術館では展覧会ごとに講演会やワークショップ、作家によるギャラリートークを開催するなど教育普及に力を入れています。ご意見の趣旨を踏まえ、各年代に応じたプログラムを充実させる記述を盛り込みました。	②
43	大規模改修では場所の移転まで含めて検討されるのか。	美術館は、市街地やひびき灘が一望できる素晴らしい景観と自然環境に恵まれた場所にあり、世界的な建築家である「磯崎新」氏の設計による貴重な芸術作品です。また、美術館は、建築後35年であり、適切なメンテナンスを加えながら、長く大切に使用していくことが望ましいと考えます。これらを総合的に勘案すると、現地で運営していくことが適当であると考えています。	①
44	素案には、美術館の大規模改修を行うと記述されているが、今後、現地で運営するのか?それとも将来移転を考えるのか?		①
45	現在地で美術館の運営を継続するなら、耐震対策だけではなく、より充実した美術館になるように、施設や設備の整備や美術館周辺の充実を行っていただきたい。	収蔵庫などの施設や設備の整備については、今後、十分に検討していきます。美術館本館の建物周辺は、樹木は鬱蒼(うっそう)とし、日中も薄暗く、見通しの悪い場所もあります。今後は、子どもから高齢者までより多くの市民が、美術館だけではなく、美術の森公園全体で1日ゆっくりとくつろぎ、楽しめる空間をつくっていきたいと考えております。このため、ご意見の趣旨を踏まえて記述を盛り込みました。	②

番号	意見の概要	意見に対する市(美術館)の考え方	反映結果
46	せっかくいい企画展を行っているのに、木々が剪定されておらず、寂しげでわびしい感じだった。美術の森公園の環境整備はどうするのか。夕方行っても17時閉館でゆっくり出来ない。お茶も飲めない。美術館は憩いの場でもあるので改善を望みたい。	美術館本館の建物は、双眼鏡を思わせるユニークな外観を持った「磯崎新」氏設計の日本でも有名な建築作品です。しかしながら、周辺の樹木は鬱蒼（うっそう）とし、日中も薄暗く、見通しの悪い場所もあります。今後は、子どもから高齢者までより多くの市民が、美術館だけではなく、美術の森公園全体で1日ゆっくりとくつろぎ、楽しめる空間をつくっていきたいと考えております。また、レストランなどのパブリックスペースの改善などにも取り組んでいきたいと思っております。このため、ご意見の趣旨を踏まえて記述を盛り込みました。	②
47	美術館と美術の森公園を一体的に楽しむ様にしていくということは素晴らしいと思う。公園と一体型にすれば親子連れで遊べるということで、あの場所も意味があると思う。現在のあの辺一体は、遊歩道はあるが公園という感じではない。木もうっそうと茂っていて不気味な感じがする。今後、見晴らしを良くするために木の剪定をやっていく等して欲しい。	美術館本館の建物は、双眼鏡を思わせるユニークな外観を持った「磯崎新」氏設計の日本でも有名な建築作品です。しかしながら、周辺の樹木は鬱蒼（うっそう）とし、日中も薄暗く、見通しの悪い場所もあります。今後は、子どもから高齢者までより多くの市民が、美術館だけではなく、美術の森公園全体で1日ゆっくりとくつろぎ、楽しめる空間をつくっていきたいと考えております。このため、ご意見の趣旨を踏まえて記述を盛り込みました。	②
48	美術館の周辺は、彫刻が点々とありすばらしい環境であるが、木が鬱蒼と茂って整備されておらず、怖い雰囲気がある。公園も含めて整備を検討した方がいい。		②
49	何とか美術の森を、美術館と一体的に整備して、市民が集い賑わう場となるように整備して欲しい。		②
50	眺望絶景の「美の森公園」の森林の一部を伐採して、宿根草等の花畑（花壇）を造成して、観賞用の遊歩道を設定してはどうか。		②
51	講堂の存在を以外と知られていない。コンサートを開くとか、広く市民の利用促進を図って欲しい。	講堂は、美術に関連した講座、講演会、研究会、小中学校の美術鑑賞教室や美術鑑賞とセットになった各種の組織・団体等の会議などに活用されています。講堂利用は、今後も、美術館運営に資することが望ましく、展覧会をモチーフとした他芸術とのコラボレーションなど、美術館施設の幅広い活用について検討する中で「講堂」の活用も検討していきたいと考えています。	①
52	市民ギャラリー及び野外広場で、少年少女合唱団と美術活動家との連携活動をする工夫を考えてはどうか。	美術館本館の建物周辺の樹木は鬱蒼（うっそう）とし、日中も薄暗く、見通しの悪い場所もあります。今後は、子どもから高齢者までより多くの市民が、美術館だけではなく、美術の森公園全体で1日ゆっくりとくつろぎ、楽しめる空間をつくっていきたいと考えております。なお、イベント等の賑わいの創出に努める記述を盛り込みました。	②
53	美術館の最大の長所は、その縁に囲まれた丘の上の見晴らしのいい立地と建物にある。この建物自体を生かしたビジネスも考えるべき。例えば、日曜日の夜間はエントランスホールをパーティ会場にしたり、月曜日の休館日をイベント会場とする貸与事業部を立ち上げるなどである。		②

番号	意見の概要	意見に対する市(美術館)の考え方	反映結果
54	韓国のヘイリ芸術村のような賑わいのある「美術の森公園」を整備するような意気込みで、取り組んで欲しい。	北九州市立美術館は、世界的に有名な建築家「磯崎新」氏による設計で、緑豊かな小高い丘の上にあり、眺望もよく、市内外から多くの来館者があり、大変親しまれています。今後は、美術館を観光資源の一つとして、市内外から多くの方が来られるよう、美術館と美術の森公園一帯を、1日中、ゆったりとくつろぎ、楽しめる空間にしていきたいと考えています。このため、関係部局等との様々な文化振興施策やイベント等との連携を図り、賑わいの創出に努めるよう記述に盛り込みました。	②
55	面白く興味を引くイベントをしたことは美術館であったでしょうか。ウォーキングと組み合わせたり、食やコンサート等組み合わせたり、あるいは歴史イベントと組み合わせたりとか。待ちの姿勢でなく攻めていく姿勢の行動の美術館であるべきで金をかければいいというわけではないのではないか。ぜんざい祭りを合わせてやっても人を多く集めることが出来なければ存在価値はゼロです。	美術館では、企画展の開催に合わせて、ミュージアムコンサートやワークショップなどのイベントなどを開催しています。ご意見にありましたように、さまざまなイベント等とのコラボレーションは大切です。今後、関係部局等との様々な文化振興施策やイベント等との連携を図り、賑わいの創出に努めていきたいと考えており、記述に盛り込みました。	②
56	都市高速で美術館に行ったが迷った。アクセスという面では、美術館や駐車場への案内標識を見やすくするとかしてアクセスの改善をして欲しい。派手目の案内板設置を希望します。	美術館への道路の案内表示については、周辺20箇所に設置をして市民の利便性に配慮しています。しかしながら、案内表示がわかりにくいという声もあることから、今回、「交通アクセス」の改善に加え、「道路案内など」の改善という記述を盛り込みました。	②
57	美術館へのアクセスは、分かりづらい。市の方でバスを運行しているが、なかなか寄り付きにくい。	現在、美術館本館へは、七条バス停からの無料シャトルバスを運行しております。また、大型企画展を開催する際には、西鉄バスの協力のもと戸畑駅から直通臨時バスも運行しています。今後とも美術館本館への交通アクセスや道路案内などの改善について検討していきたいと考えており、記述に盛り込みました。	②
58	七条からのシャトルバスはあるが、戸畑からの構内乗り入れについて検討して欲しい。	JR戸畑駅からのバスの常時運行は、来館者の利便性を高める上で課題であると認識しています。まずは、大型企画展での戸畑駅からの直行臨時バスの運行の定着を図るとともに、「これからの市立美術館について」に示している様々な取り組みを推進して、美術館の来館者増、バス利用者増に努めながら、バス事業者に将来的な路線再開について働きかけていきたいと思います。	①
59	山路インターから美術館までの間に標識が少なく、美術館がどこにあるのか不安だという声を地元や市外来館者の方々から聞いている。また、七条の交差点付近で美術館方向を示す標識などを整備して欲しい。	美術館へのアクセスについては、HPやチラシ・ポスターなどで説明するとともに、道路標識による明示、七条から美術館までシャトルバスを運行などで対応しています。また、大型の企画展を開催する際には、戸畑駅から臨時バスを運行するなどして、利便性の向上に努めています。 しかしながら、アクセスに関する要望は未だに寄せられることから、引き続き、交通アクセスの改善を検討していきます。また、美術館への案内表示についても十分ではないと思しますので、新たに「道路案内」も改善するという記述を盛り込みました。	②
60	戸畑の美術館では、自家用車を持っていない人間はどうやって行けばいいのかわかりにくい まず、アクセスが容易で、勤務の後でも夜でも気軽に頻度多く行ける様な例えば黒崎駅のすぐ近くなどJR駅の近くに身近な場所に設置すべきで、変な建物が美術館でアクセスがしにくいと利用しにくい人間にとっては何の意味もない施設としか感じません。		②

番号	意見の概要	意見に対する市(美術館)の考え方	反映結果
61	立地条件・交通利便性は、本館よりも分館の方がいいが、本館は、あれだけお金をかけて建築した建物なので、交通アクセスの改善にもっと早くから取り組むべきだったと思います。	現在、美術館本館へは、七条バス停からの無料シャトルバスを運行しております。また、大型企画展を開催する際には、西鉄バスの協力のもと戸畑駅から直通臨時バスも運行しています。今後とも美術館本館へのアクセスについては検討していきたいと考えています。	①
62	乳飲み子を抱えていると、美術館へ足を運ばないし、落ち着いて鑑賞も出来ない。「赤ちゃんの駅」のように利用者に配慮した環境整備をして欲しい。	美術館では、エントランスホールに隣接した会議室を授乳室として利用いただいております。今後は、ご意見にもありますように、乳幼児を連れの方などが来館しやすい環境づくりに取り組むことが必要であると考え、記述を盛り込みました。	②
63	ミュージアムショップが非常に小さくて魅力がもう一つ。また、営業しようとする努力が見えないという状況である。	ミュージアムショップは、図録、絵葉書、オリジナルグッズなど、美術館関連の多彩な商品を扱っています。平成17年には、ショップを拡大し品揃えを充実しています。ミュージアムショップは、美術館の魅力に大きく影響するものと考えており、エントランスホール的美観にも配慮しながら、今後、魅力あるショップづくりについて研究していきたいと考えています。	①
64	「子どもから高齢者まで幅広い市民が気軽に集い楽しむ美術の丘となるよう検討」とあるが、障害者や在日外国人も含まれているのだろうか。「合理的な配慮」がされない層への配慮をきちんと明言して欲しいです。また、障害者や在日外国人を含んだ視点での他自治体の取り組みを参考に、事業展開を強く望みます。	美術館は、昭和49年に開館し、35年が経過しました。開館当初は、エントランスホールへ通じるエスカレーターも設置されておらず、高齢者や障害のある方などへの配慮が十分とはいえない状況でした。その後、スロープ、多目的トイレの設置、貸出用車いすやベビーカーの常備などを順次実施しております。なお、ご意見の趣旨を踏まえて、今回、乳幼児を連れの方や障害のある方などが来館しやすい環境づくりに取り組むという記述を盛り込みました。	②
65	本館ロビー（一階）ソファー等を多くもうけてほしい。	本館ロビーについては、みなさまからのご要望にこたえて平成22年よりロビーの美観の確保にも配慮しながらミュージアムショップ横などに椅子を設置しています。また、美術館で、非日常的空間を楽しめるように椅子の増設やパブリックスペースのレイアウトの改善などに取り組めます。	①
66	エントランスホールにもう少し椅子が置いてあると便利かと思えます。		①
67	本館ロビー近くに喫茶等をもうけてほしい。		①
68	レストランで特色ある飲食物を販売して集客力を強化したり、本館一階売店での魅力ある絵画のデザイン展を開催し、その優秀作品のプリントハンカチや絵ハガキを製作・販売してはどうか。		①
69	本館から別館（アネックス）に行くのは、距離が長く大変不便である。本館と別館の棲み分けについて、もっと工夫して欲しい。	本館では、主にコレクション展、企画展を実施し、別館（アネックス）はコレクション展の版画展示と市民ギャラリーとなっています。今後、動線や施設の案内表示について検討していきたいと考えています。	①
70	本館とアネックスの距離は、あまりに遠すぎる。なんとかしてほしい。		①

番号	意見の概要	意見に対する市(美術館)の考え方	反映結果
71	アネックスは個人展を実施しているので、自分達で行くのが基本ですが、本館入場者のアネックスへの誘導を考えていただきたい。		①
72	赤ちゃんや幼児などの小さな子も一緒に連れて行ける美術館であってほしい。	美術館では、赤ちゃん連れで来館できるように、企画展の開催の都度、赤ちゃんの授乳室を設置しています。また、小さなお子さんが楽しめるような展覧会やワークショップなども実施しています。今後は、小さなお子さんを対象とした施策や保護者が安心して来館できるような環境整備が必要と考えており、記述に盛り込みました。	②
73	美術館分館の出口付近の混雑対策を行って欲しい。	分館は、出口付近にショップコーナーがあるため、展覧会によっては出口付近が混雑してご迷惑をおかけしています。今後は、展覧会の規模に合わせて、ショップの位置を変更するなど、検討していきたいと思っております。	①
74	美術館の駐車場が狭いので、広くして欲しい。	美術館の駐車場は、約180台収容が可能です。大規模企画展を行った場合の最終土・日にまれに一時的に混雑することはありますが、概ね支障なく利用していただいております。	①

4. (2)『交流する、育む』に対応する取組み に関する意見

番号	意見の概要	意見に対する市(美術館)の考え方	反映結果
75	なぜボランティア等の養成に美術館が取り組むのか明確にされていません。この素案を読むと、美術ボランティアの養成、美術館運営サポーターは美術館のためです。美術館の視点ではなく、生活者の視点での事業の組み立てをして欲しい。また、ボランティアコーディネーションの専門性をもった専任者を配置して、初めて「市民参画型の美術館」と言える。	美術館は社会教育施設であり、美術館がボランティア活動を支援することで市民のいきがいつくり貢献しています。美術ボランティアは、来館者への作品解説や図書の修復などを自主活動として行っています。ボランティア活動には美術に関する専門的知識・経験が必要であり、美術館学芸員が、専門性を高める研修を行い、ボランティアの育成に努めているところです。なお、今回のご意見をいただきまして、市民参画による美術館運営を進めることを、記述に盛り込みました。	②
76	今後も高校生や大学生とも連携して欲しい。	今後、市内の高校・大学等と連携し、生徒・学生がサポーター会員として、例えば、コレクション展での作品での作品選定や展示企画などの美術館活動に参画する方策を検討したり、博物館実習生を積極的に受け入れたりして、若年層の美術館への関心を高める工夫を行います。	①
77	美術館は次世代の人をつくるのに役立つようになればならないと思います。初心者への手ほどきなど無料で市民を教育したことがあるでしょうか。教育部門も外に出てでもやっていかなければなりません。	美術館では、小中学生の美術鑑賞教室などにより、美術教育の場として活用されています。また、今回、高校・大学生など若い人たちが美術館の運営に参画する美術館運営サポーター制度を新設することとしています。若い人たちが美術館運営に参画することを通して、次世代の文化を担う人材づくりにつなげたいと考えています。	①
78	CCA北九州には、以前の作品の設計図とかあると聞いている。それを利用して、美術館の支援で市民やアーティストなどで復元しても面白いと思う。	美術館では、今後、博物館や芸術劇場、CCA北九州など市内のさまざまな文化施設などと連携して、展覧会やワークショップの開催などを行うことを検討していきます。	①

番号	意見の概要	意見に対する市(美術館)の考え方	反映結果
79	CCA北九州との連携を考えて欲しい。訳のわからない作品をどう理解したらいいのか、どういうふうに観るのか等というような講座を市民に行ってはどうか。		①
80	博物館・文学館や芸術劇場との企画連携により、幅広い観点から美術を見渡すことができる。		①
81	CCA北九州の10年間の作品展を美術館企画展として開催していただきたい。そうすることによってCCA北九州の活動が市民に見え、美術館が最先端の現代美術作品を紹介できることで全国的な関心を集めることができると思います。		①
82	市内の集客に目を向けるのではなく、広くアジアに目を向けて、日本の最先端の現代美術を展示し、アーティストオブレジデンスなど頻繁に開催し、地元作家に残っているアーティストに活性を与え、新人を発掘していくような美術館になって欲しい。	美術館では、今後、芸術劇場、CCA北九州をはじめとしまして、さまざまな文化施設などとの連携を検討していきます。また、市民ギャラリーの一層の利用促進、積極的な広報に努め、地域作家の作品発表の場として活用していきます。	①
83	鑑賞教育と同時に創作体験を強化して欲しい。CCA北九州やアジア美術館滞在のアーティストなどを招いたワークショップ、美術館の自然環境を利用した野外ワークショップの実施。ワークショップでは、美術品解説のボランティアとは異なる、創作体験を支援するサポーターの養成が望まれる。また外国人アーティストによるワークショップでは、通訳ボランティアの活動を期待したい。	美術館では、展覧会ごとに創作活動をともなうワークショップを開催しているところです。さらに夏季には外部講師を招いてのサマーアートスクールを開催しています。今後ともその充実に努めてまいります。また、今後、博物館や芸術劇場、CCA北九州など市内のさまざまな文化施設などと連携して、展覧会やワークショップの開催などを行うことを検討していきます。	①
84	⑪ 根本的に今後の展望を考えるのなら、従来の美術館という蛸つぼ型で考えるのではなく、いっそ北九州市のすべての芸術文化行政を総合的に俯瞰して検討すべきか、と思います。アートはそれを職業とする人だけのものではなく、一般市民の生活の隅々にも入り込んでいますから、行政の窓口も多岐に亘っています。一番不思議なのは、現代美術にウェイトを置く方針の美術館と、文字どおり現代美術のセンターを目指しているCCAを監督する行政の窓口が別で、これまで両者の活動に何らの連携も見られない、ということです。教育委員会以外に経済を管轄する部局、文化を管轄する部局がそれぞれに文化行政の一翼を担っている実態もあります。美術館は建築物としても北九州市が誇れる最も優れたものです。従来イメージの美術館を越えて、物理的にも機能的にも芸術文化の殿堂として、総合的な芸術文化の発信基地として、北九州市の文化庁として、活用すべきではないでしょうか？アートは画一的なものではありませんが、清張記念館、文学館、芸術劇場、響ホール、等などを始め、民間の様々な運動、例えば「創を考える会」や「八幡クロノス」なども含めて、市内はもとより内外の文化の担い手との情報の受発信基地を目指せば、効率も良く夢が広がるのではないのでしょうか？地方分権が叫ばれる時代、従来の法の規制に捉われず、芸術文化行政の北九州方式を生み出せば、結果として行政改革にも繋がりますし、予算の効率的な運用も可能かと思います。*だからと長くなって恐縮ですが、署名入り意見を事務局で縮めてお使いになるのはお断りします。以上	市内には、市の文化施設を始め、美術、音楽、演劇などを行う多くの団体があります。今後は、博物館や芸術劇場、CCA北九州など市内のさまざまな文化施設や文化関係団体との連携による事業への取り組みについて、検討していきます。	①

番号	意見の概要	意見に対する市(美術館)の考え方	反映結果
85	バブル期、一市一美術館の勢いで文化施設が乱立し、結果として今や閑古鳥が鳴いている。一方、個性あふれるリーダーの居た美術館は、その存在が観光の目玉となっている。北九州市美術館こそ、現代美術と地元作家の作品のアーカイブスとがうまく調和した施設となって欲しい。		①
86	芸術を生業にしたい若い作り手の「工房」の「場」を美術館に設置する。芸術家を目指す作り手に美術館を常時無償で開放し、育成および交流をはかる。制作工程は一般来館者にも見学できるようにし、世代間の連帯を促進する。	北九州市立美術館が35年の歴史を刻む中で、市内では、様々なアート活動が活発に行われています。今後はこれらの活動との連携を進めていきたいと考えています。	①
87	本来美術の展示で、鑑賞人員を増やし、経済性を追求するのは困難です。美術には地域的貢献のほかに、見慣れないものでも展示し、現代に生きる啓蒙活動が大切だと思います。予算に関わりのある市会議員との交流・学校によって児童への美術教育に軽重があると思われるのですが、先生方との交流の機会がより重要ではないでしょうか。	当館は開館以来、教育普及に力を入れてきています。平成18年に学校の教員向けに、美術館を活用した鑑賞指導資料を全校に配布いたしました。また、平成22年1月の冬のコレクション展を大学、小中学校の教員と共同企画するなどの連携も図っているところです。今後とも充実に努めていきます。	①
88	福岡・山口県内他館との美術品やアーティスト、学芸員を通じた交流によって、それぞれの美術館の個性を際立たせながら補完し合うような関係が築ければよいと思う。	今後は、他美術館学芸員と当館学芸員との情報交換やフリーディスカッションの場を設けるなど、他館と連携した調査研究を推進します。	①

5. (3)『発信する、貢献する』に対応する取組み に関する意見

番号	意見の概要	意見に対する市(美術館)の考え方	反映結果
89	情報発信についてですが、分館で企画展をやっても市民への周知がなかなかされないため、入館者が少ないとか、マスコミなどに情報提供しても展覧会情報が報道されるか否かはマスコミ任せになり、PRがうまくいっていないとか聞いたことがある。何か、工夫をこらして情報発信する力をつけていただきたい。	美術館では、企画展の開催に合わせて、新聞、テレビ、ラジオなどのマスメディアを利用した広報や、ポスターやチラシ、HPなどで展覧会のPRを行っております。また、最近では、福岡市の地下鉄、私鉄、県内主要JR駅などにも広報活動を広げております。今後、新聞、ホームページ、モバイルメディアなどを積極的に活用するなどして効果を上げる方策を検討していきます。	①
90	美術館などの催しもの紹介で北九州市美術館（本館）の紹介がほとんど記載されないのは何故ですか？		①
91	大人向け、子供向けの発信の使い分けも検討してはどうか。子どもたちは、「たんけんパスポート」で美術館に行けるが、情報がなくただ見ているだけである。説明を受けて鑑賞をすれば、さまざまな興味がわいてきて関心も高くなる。このように、子どもたちにもわかりやすい情報を与えて、関心を高めるような子ども向けの情報発信をして欲しい。	現在、美術館では、小中学生に対して、4月に「たんけんパスポート」配布と同時に1年間の展覧会を紹介したり、7月に夏のワークショップと展覧会を紹介したり、12月には冬の展覧会を紹介しています。これらの紹介は、子ども向けに興味があくチラシで紹介しています。また、子ども向けの作品解説書を作成し、館内で配布しています。子どもに分かりやすく関心を高めるような情報発信は、非常に大切であると考えています。ご意見にありますように、今後、子ども向けのわかりやすい情報提供にも一層取り組むこととし、記述に盛り込みました。	②
92	各種情報発信を美術館では行っていますか？HPなどで、どしどし魅力を発信していますか？HPや広報誌で積極的に町に出ていく行動力を持つべきです。	美術館では、今後より一層新聞等多様な広報媒体を活用したり、ホームページを充実したりして積極的に情報を発信していきます。	①

番号	意見の概要	意見に対する市(美術館)の考え方	反映結果
93	北九州芸術劇場や他の美術館はリーフレットやTVでの様子から多岐にわたる活動ぶりや楽しさ、親しまれようとする姿勢が全面的に感じられるが、市立美術館は型どおりであり、情報量と工夫が少なく、閉鎖的にも見え、独自の色が打ち出せていないように思う。企画そのものも、優等生的ではあるが美術館の人のこだわりや情熱がずっと伝わって来ない。	企画展については、マスコミと共催し、新聞やテレビのほか、情報誌、チラシ、ポスターなどを活用して、積極的に広報活動を行っています。また、鑑賞者に対して、展覧会に親しみが持てるよう展示作品を分かりやすく解説したリーフレットを作成・配布するなどの工夫をしています。今後は、ホームページの充実を図り、美術館の運営や事業について、幅広く情報提供し、市民から親しく楽しめる美術館づくりに努めたいと考えています。	①
94	美術館のホームページの充実が望まれます。	美術館のホームページについては、主に展覧会情報などを紹介しています。ホームページについては、広報活動の重要なツールですので、今後、これを活用して、広報活動を充実したり、英語版、中国語版、韓国語版を作成して国際化へ対応したり、デジタルミュージアムの構築を検討したりすることとしています。	①
95	コレクションを把握・管理できる「レジストラ（収蔵品記録管理者）」を置く。海外の美術館では常識となっており、最近の日本の美術館でもこの専門職枠を設けるところが増えていきます。できればこの美術館のコレクションを熟知している元職員の出用が望ましいと思います。	美術館は約7,000点の貴重なコレクションを収蔵しております。寄贈や購入により、年々コレクションは増大しており、H15よりコンピュータによるデータベース管理を行っています。また、将来のデジタルミュージアムへの対応なども考慮して、随時、入力情報の追加・更新を行っています。 市民の財産である貴重なコレクションを確実に将来の世代に伝えていくためには、その管理は大事ですので、コンピュータによるデータベースの管理の強化を図ってまいります。	①
96	やたらと学校との連携＝美術教育の様子に書かれてありますが、学校に出来ない事、自主性を育むことも大事だと思います。自ら休日を使ってでも自主的に行こうと思う美術館とはどういうものなのか、「たんけんパスポート」で無料だから、では本当にそういった環境が整うのかどうか、他都市の美術館も参考に、もう少し本当の意味での先を見据えて考えていただきたく願います。	子供のときから美術に触れ、豊かな情操を養うことは、大変重要なことです。平成20年度の学習指導要領の改訂で、美術館と学校との連携強化が示されており、今回の「これからの市立美術館について」は、その方針に基づき、学校との一層の連携を推進することとしているものです。 しかしながら、ご意見にありますように、子どもたちの自主性を育むことは大切と考えています。このため、見る人の発見を大切に、見方や感じ方を広げるなど、能動的な鑑賞が出来るような工夫などを行ってまいります。	①
97	学校教育との連携強化として、北九州市小中学校児童・生徒美術展等の受賞作品展を開催したらどうか。	ご意見にもありますように、美術館では、学校や地域の教育機関と連携した展覧会や、版画工作・美術の授業と連携したコレクション展を企画するなど、学校の観賞教育に役立つような展示を行っており、今後さらにその内容の充実を工夫していきたいと考えています。	①

6. (4) 全体の基盤整備に係る取組み に関する意見

番号	意見の概要	意見に対する市(美術館)の考え方	反映結果
98	美術館には、搬入、審査の時場所がない、作品の保管場所が少ない、照明が暗い、寒くて館内での作業にとっても困っています。	美術館は、築35年を経て、建物が非常に手狭の状態となっています。このため春の芸術祭などで、十分な審査室の確保ができず、皆さまにご迷惑おかけしております。今回の「これからの市立美術館について」では、このような状況に鑑み、今後、審査室として利用できる作品一時保管室を確保することとしています。	①
99	審査する場所を確保して、照明等の完備をして欲しい。		①

番号	意見の概要	意見に対する市(美術館)の考え方	反映結果
100	審査室が倉庫になっていて、審査室として使用できない。審査は搬入場所で行なっている。作品も保管場所が無い為その場所に置いている。原因は倉庫不足でありましょう。		①
101	五ヶ年計画で目標設定、評価、検証、とあるのは大いに賛同します。役所関係者より外部の人を積極的に取込むべきです。	美術館の運営にあたっては、「これからの市立美術館について」に掲げる取り組みを進めるため、今後5カ年の目標を設定し、その目標に対する評価・検証については、美術館で自己評価を行います。また、ご意見にありますように、自己評価に加え、外部委員で構成する美術館協議会による評価を行い、効果的な事業の推進、サービスの向上を図ることとしています。	①
102	美術館協議会の委員構成の見直しとあるが、外部の専門家の意見は貴重であるので、具体的に委員構成の見直しをどの様にされるのか。	現在の美術館協議会の委員につきましては、博物館法第21条に基づいて「学校教育及び社会教育の関係者」「家庭教育の向上に資する活動を行う者」「学識経験のある者」から選任しています。 文化に対する市民の価値観は多様化し、美術館に対する期待や要望などさまざまな変化に対応していくことが、今後必要となります。このため、美術館の企画・運営に高度な知識や経験を持った専門家、学識経験者を加えることとしたものです。	①
103	協議会の委員には、障害者や在日外国人の当事者などマイノリティの視点、生活者の視点での委員が必要である。協議会による外部評価での改善、是正などの意見聴取も、単なる意見聴取になりがちである。きちんと説明責任のある対応をして欲しい。		①
104	組織体制については、良好な人間関係で、新しい基本理念をもとに運営していただきたい。素案の中で、学芸員増とあるがどのように補強を行っていくのか。教員出身の学芸員だけでなく、新しい基本理念に基づいた他の美術館での勤務経験のある人も採用してほしい。	今回の「これからの市立美術館について」では、地域と共に成長していく美術館を目指して、自主企画展や他館と連携した企画展などに取り組むこととしています。そのためには、学芸員の美術史、作家・作品、収蔵作品に対する調査・研究などが不可欠であると考えています。このため、今後、ご意見の趣旨も踏まえながら、学芸員の増員も含めて運営体制の整備に取り組むこととしています。また、美術館内で日々の業務を通じたOJT研修、外部の専門機関の行う研修会への参加などを通して、学芸員の資質向上にも努めていきます。	①
105	「誰が美術を伝承するか？」が大きなポイントになると思う。少なくとも美術館としては、美術に一定の知識を認められた学芸員中心の専門職を配置すべきだが、一部学芸員とは違った見方を提供できる知識人による要素も入れる方が良いだろう。		①
106	自主計画及び美術館での経験が豊富で、全国の美術館に幅広いコネクションを持つ学芸課長の登用。学芸課長は美術館の要です。		①
107	学芸員は10年かかってやっと独り立ちできます。学芸員(経験者)の増員を図ることが大事だと思います。		①

番号	意見の概要	意見に対する市(美術館)の考え方	反映結果
108	書かれてある素案は、表向きの部分ばかりの表現ばかりです。「発信」や「開催」の為に、美術館内部の専門職員(学芸員)の技術や人脈、及び日頃の研究があつてこそのものであります。またそれを支えていく組織、その組織を支える市民の意識あつての「良い美術館」だと思ひます。		①
109	『素案』を実施した場合の成果は勤務する方々の熱意にかかつている。特に学芸員に期待したい。専門性や得意分野。		①
110	コンクリートの建物は100年くらいで簡単に劣化しない。設備の更新とかより、優秀な学芸員を再度集めなおし、自主企画にお金をかけて欲しい。忘れられ・あきらめかけた市民に美術館のあるあの丘に目を向けさせるためにすべきことを考えて欲しい。		①
111	増員だけでなく、美術館学芸員として企画運営等、実務経験のある人達が必要でしょう。		①
112	評価できるのは、学芸員の増員である。学芸員の質が問題である。小中学校の美術教員の学芸員を増員しても何の足しにもならない。学芸課長という要職が元教員では、お話にならない。学芸課長をはじめ、中堅学芸員の有能な人材をスカウトすべきである。 評価できる点として他に、企画展の充実、学芸員による美術史、作家・作品の研究を踏まえた自主企画…があるが、それが可能な力を持つ、学芸員の整備が前提である。		①
113	素案を具体的に実行するには、学芸員を増やすだけで果たして実現できるのか疑問である。学芸員の負担を減らして、学芸員の本来の仕事である美術の研究とその発表(展示)がおろそかにならないようにして欲しい。	今回の「これからの市立美術館について」は、美術館本来の機能である作品の収集、調査・研究、展示、教育普及を充実するものです。美術館としては、今後、コレクションの充実を図るとともに、学芸員が作品の調査・研究に時間をかけて取り組めるよう、運営体制の整備に取り組むこととしています。	①
114	コレクションの収集については、少数の意見のみでなく、協議会や学芸員等の意見を聞き、計画的に行うことが必要である。	美術品の収集にあたっては、美術館の基本方針に基づき、質の高い優れた美術作品の収集を心がけながら、地方美術館として特色あるコレクションの形成を目指しています。美術品の収集にあたっては、学芸員による調査研究を前提として、作家や作品に詳しい他美術館学芸員や美術に関する知識や経験豊富な美術資料収集委員に意見を聴きながら、慎重に収集しています。	①
115	学生や教員、ボランティアによる展示企画・運営を目指すのであれば、スピーディな運営ができるよう民間委託を平成23年度から行わなければならない。民間ボランティアを集め、事務も含めボランティアで運営していける体制を作っていく。将来的にはそれらボランティアで主体的に運営していける道筋を2年間でつけると明記して欲しい。	厳しい財政状況の中で、美術館を効果的・効率的に運営していくことが、求められていると考えています。そのためには、職員全員が経営的センスを磨くとともに、経営的視点を絶えず持つような意識改革に取り組むことが必要と考えています。 このため、まずは今回の「これからの市立美術館について」の趣旨、美術館の目指す方向を職員全員で共有し、一人一人が高い志を持ちながら、それぞれの職務分担において継続的にその役割を十分果たしながら、効果的・効率的な運営に一層努めてまいります。	①

番号	意見の概要	意見に対する市(美術館)の考え方	反映結果
116	膨大な図書を管理できる「ライブラリアン(司書)」を置く。北九州市立美術館では、入手困難な貴重本や資料、数十年かかってボランティアがスクラップした資料がある。それを守り研究者や市民の閲覧の要望に応えられる司書と図書館機能が必要。	厳しい財政状況の中、美術ボランティアの方々のご協力も得ながら、職員の職務分担の中で、役割が果たせるよう努めてまいります。	①
117	司書をおくこと。学芸員は美術館の力ですから、育てるのは勿論、経験豊かな方複数が必要だと感じます。		①
118	<p>⑥ 谷館長時代はご本人の文化に対する造詣や見識と相俟って前市長という立場もあり、予算の獲得なども含めて、極めて安定したバランス感覚に基づいて、長期ビジョンの下で運営されてきた印象があります。かといって絶対君主ではなく、学芸員をはじめ、職員に対する人事権や人事考課権すらもたず、大きな制約のもとで公立美術館の運営に腐心されていたと思います。</p> <p>⑦ 公立故の組織、管理体制の問題点は、真の管理責任者は誰か、ということです。美術館協議会の見直し、活用にも触れられてはいますが、そもそも協議会は博物館法に設置が義務付けられているから存在するものであって、大きな役割、機能を期待できるのか否か？要は美術館を運営する実質的な権限はどこにあるか？館長、学芸員、協議委員、等の実質的な任命権者は誰か？建前的には教育委員会、ということだと思いますが、ならば、教育委員の任命権者は？教育委員長と事務職の教育長の権限の大きさは？となってきます。要は35年の運営のノウハウがどの組織に、誰から誰にしっかり継承で繋がっているのか否か、が大事です。内外の著名な美術館では、一生をその美術館にささげたような、生き字引と言われる人が多々いますが、公立の本分を弁えた上で、美術館に対して限りない愛情とかつバランス感覚に優れた管理者を育てる必要があります。</p> <p>⑧ 管理の本筋は現場に近いこと、でしようから、実質的な管理責任者としての館長の権限強化、あるいは協議会の権限強化が相俟って必要なことかもしれません。あるいは逆に文化行政上の館長職はボランティアの名誉職、として、実務管理責任者としての館長は別に定める方が良いのかもかもしれません。その際は文化行政上の、市の諸々の施設との連携もあり、一つの施設に一人の館長は必ずしも必要ではなく、予算の上からも複数の施設を管理する館長が望ましいのかもかもしれません。教育委員会自体の組織が複雑で、素人には良く理解できないところがあります。</p> <p>⑨ 管理体制を越えて、実質的な経営に近い運営体制を考えるべきか、とも思いますが、安易な民間委託では委託者の権限の範囲を始め、不明確な問題が多々生じるでしようから、最近の公益法人改革や、特殊法人見直しの機運の中で、的確な運営形態を考えた方が良いのかもかもしれません。</p>	美術館を地域文化創造の中核的な拠点として位置づけ運営を行ううえで、その美術館の運営体制は、大変重要と考えています。そのため、館長を中心として、学芸員、事務職員全員が美術館の目指す方向を共有し、一人一人が高い志を持ちながら、それぞれの職務分担において継続的にその役割を十分果たしながら、効果的・効率的な運営に一層努めてまいります。	①
119	海外の美術館では、非常に企業からの寄附が活発である。市立美術館にも営業担当を置いて、寄付金をもらうとかしたらどうか。	厳しい財政状況の中で、美術館を効果的・効率的に運営するためには、職員全員が経営的センスを磨くとともに、経営的視点を絶えずもつような意識改革に取り組んで、それぞれの職務分担の中でその役割を十分果たすことが必要と考えており、寄付金に係る営業担当を配置することまでは考えていません。	①
120	福岡市美術館で、版画工房室を月に1~2回利用してリトグラフをしていた。北九州市立美術館でも、博多の美術館版画工房室みたいなリトグラフができる工房を作って欲しい。	美術館には、絵画教室や銅版画教室に利用できるアトリエはありますが、リトグラフに対応できる設備(プレス機、防水床)がありません。財政上の問題もあり、今後、施設設備の大改修を検討する際に、施設・設備のあり方について研究していきたいと思っております。	①

番号	意見の概要	意見に対する市(美術館)の考え方	反映結果
121	10年目位に、美術館に自分の作品を買い上げて頂いた。何年かしてから、美術館に展示されたので見に行ったところ油絵具の油が流れていた。自分の作品であるので、後で電話をして修理したいと申し出たにも係わらず、美術館から拒否されました。美術館の温度管理をきちんとしてほしい。	当時の状況は不明ですが、何らかの要因で、絵具が溶出したものと思われます。現在、作品の購入に当たっては、作品の状態等を厳しくチェックし、また、展示にあたっては適切な温度・湿度管理を行っています。美術館では、今後も適切な管理に努めてまいります。	①
122	アネックスの近くにパーキングを設置してほしい	施設設置上の制約があります。今後、改修を検討していく際には、その可能性も研究してみたいと考えます。	①
123	これから先、美術館の大規模改修等を行う場合は、是非公開コンペティション（設計競技）で行ってほしい。市民や地域のための施設であるので、市民投票などで審査行って、つくるところから、市民の興味、関心をもつことで、より地域の核となるのではと思います。国内外に北九州市のことをアピールできる機会にもつながると思います。（例：千葉県市原市水と彫刻の丘コンペ）。	美術館の改修の検討は、これから始めるものです。検討する際は、どのような手法がとれるのか等についても研究したいと考えています。	①

7. その他の意見

番号	意見の概要	意見に対する市(美術館)の考え方	反映結果
124	無料招待券は、やめるべきではないか。	招待券については、展覧会の広報宣伝などのため、全国の美術館や報道関係者、ポスター掲示やチラシの配布に協力いただいている方へ配布しています。平成18年度から招待券の目的や効果などを考慮し、毎年、配布の縮減に努めています。今後とも、収益性の向上という観点から、縮減に取り組んでいきたいと考えています。	①
125	65歳以上無料を見直すべきではないか。	北九州市民で65歳以上の入館者については、現在、市が発行する年長者利用者証を提示することにより、展覧会の観覧料が100%減免となっています。展覧会のうち実行委員会方式による企画展についても、年長者の負担軽減と年長者の美術鑑賞の促進という観点から減免措置を行っています。多くの年長者から喜ばれ、市民に定着した施策となっています。減免のあり方については、多様なご意見がありますので引き続き研究していきたいと思っております。	①
126	美術作品を理解するためには、その作品が生み出されてきた地域のことは、食物、神話などの文化がわかる資料や図書を充実する必要があります。そして、これを公開し、美術鑑賞をする人の手助けにする必要があると思います。	美術館には多くの美術図書資料があります。美術ボランティアなどのご協力を得て、必要に応じて展覧会などの場で活用しています。	①
127	美術館分館のミュージアムショップで買い物を用いた場合、リバーウォーク駐車場の割引券をもらえますが、市営駐車場の割引はありません。同じ市の施設（駐車場と美術館分館）を利用するのに割引がないというのは問題ではないですか。	ご意見ありがとうございます。今後の参考とさせていただきます。	③
128	平野遼さんの特別展示展がありましたが、涙が出て止まりませんでした。関東でも平野さんの場合、大入りでした。彼の作品が散逸しないためにも、市が記念館構想に賛同すべきだったと思っています。		③
129	敷居が高くてコンサートに参加（演奏）させてもらえないとの市民からの苦情がある。		③

番号	意見の概要	意見に対する市(美術館)の考え方	反映結果
130	素案を何度も読みました。とても良いことばかり書かれていますので、それが実行されましたら、本当に良い事だと思います。多いに期待します。	ご意見ありがとうございます。今後とも市民のみなさまの多様な意見を真摯に受けとめながら、基本理念をもとにした新たな取組みを推し進めてまいります。	③
131	美術館の基本理念は大変すばらしく、実現してほしいと思います。		③
132	素案としては概ね良かった。		③
133	北九州市憲章の思想を生かし、より豊かな美術館運営を期待したい。		③
134	素案は満遍なく必要なことが示されてよく出来ている。		③
135	『素案』は良く出来ていると思います。まず、この基本方針が実現できれば私達の美術館として誇れる美術館に生まれ変わることが出来ると思います。		③
136	今回の素案をすべて読みましたが、素案に関しては非の打ち所のない完璧なものであったと思います。		③
137	「これからの美術館」を拝見、いかにも優秀なお役人さんの作文のようで、きれいにできすぎているのが気になります。		③
138	評価できるのは、美術館協議会委員の見直しである。		③